

観測部月報

*

東亞天文協會

★流星課だより (83)

八月の流星全盛期はすぎたが九月も流星は少くない。著名な流星群はないが21日前後には羊座 α 附近から、27日前後にはアンドロメ座 α 附近から緩速度の流星が放射することが知られてゐる。この外に同月末に魚座 ϵ 附近に輻射点を有する流星群の活動することが本會流星課員数名によつて認められてゐる。

× × × ×

四月及五月の観測で現在までに入手したものは甚だ少く其の集計は下の通りである。

	観測地	四 月			五 月		
		回数	時間数	流星	回数	時間数	流星
小 横 孝 二 郎	和歌山縣金屋	1	30	6			
吉 井 耕 一	廣島縣竹原	6	580	46			
堀 田 泰 生	横 濱 市				1	90	6

七月下旬の水瓶座流星群は本日(30日)までに筆者は二回観測した。其の結果は下記の通りである。

月 日	時 間	流星數	水瓶 δ 群	F
July 28	2時5分—2時25分(20分)	7	1	0.4
〃 29	2 5 —3 25 (80分)	27	8	0.9

29日の観測から求めた輻射点の位置は $\alpha=343$, $\delta=14$ である。(小横)

★太陽課だより (7月)

報告者13名, 病氣其他色々な事情によつて例月より稍減少した。

天候 上旬例の關西の豪雨があつた事に依つて知り得るが如く、其後も7月にしては甚だ悪かつた。結局、2日、4日、14日の三ヶ間の観測の無かつた事は遺憾に堪へない。次に相對數を表示する。

太陽課 黑點相對數報告 (1938年6月)

觀測者 (觀測地)	千葉 武志(若手縣水澤町)	御供 印孝(東京市立一中)	森久保 茂(東京慈惠醫大)	堀田 泰生(橫濱市東寺尾)	淺居 正雄(橫濱市神戶上)	沓掛 七二(長野縣青木村)	大石 辰次(靜岡縣吉永村)	山田 達雄(愛知縣犬山町)	正村 一忠(岐阜市薄旗町)	木邊 成磨(滋賀縣中里村)	川上 英(大阪明星商業)	伊達英太郎(兵庫縣雲雀丘)	改發 香鳩(神戸市關守町)	津留 繁雄(熊本市本莊町)	坂上 務(鹿兒島市山下)
口徑 mm	102	32	150	36	76	75	25	35	55	102	58	38	72	50	50
倍率	67	50	68	40	56	60	48	44	64	75	60	50	50	32	50
1	雨曇	曇雨	病氣中	雨	雨曇	雨	曇	雨	曇	92	雨	雨	缺	曇雨	曇雨
2	144	曇雨	曇	雨	雨	雨	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
3	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
4	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
5	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
6	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
7	163	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
8	171	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
9	192	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
10	189	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
11	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
12	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
13	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
14	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
15	182	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
16	164	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
17	150	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
18	138	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
19	140	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
20	161	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
21	173	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
22	157	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
23	173	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
24	176	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
25	189	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
26	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
27	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
28	148	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
29	147	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
30	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
31	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
日數	18	10	9	2	21	15	22	11	13	5	11	7	5		
平均	164	85	163	—	162	107	126	122	203	—	191	—	101		

概況 一ヶ月全體として非常に活況を呈した。相對數から見れば、昨年の8月に次ぐものであつて、太陽黑點の活動もほぼ最盛期に達したのではあるまいか？ 特に肉眼的な大黒點群が相當多く出現した。

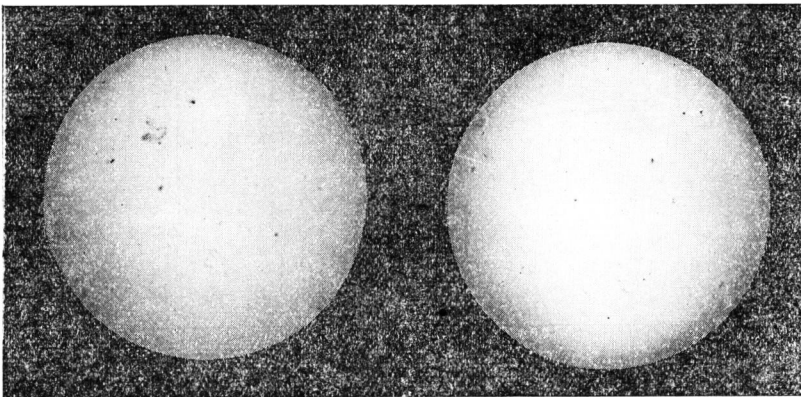
肉眼での黒點，坂上，正村，堀田，森久保，津留，5氏により報告。

	坂上 務	正村一忠	堀田泰生	森久保茂	全 體
觀 測 日	18	10	11	7	46
肉眼的黒點 出現日數	9	8	1	2	20
〃黒點群數	9	11	1	4	25

以上の如く、觀測日の半數は肉眼で黒點が認められたわけである。

南北兩半球の比較 本田氏より正確な觀測が、已を得ざる事情の結果、入手する事が出来なかつた爲に、充分な判定は下し得ないが、僅か南半球の方が優つて居た様である。(相對數で見れば北73, 南104, 但し木邊の觀測) 特に肉眼的な大黒點群は南半球の獨占であつたと云へるだらう。

大黒點群、先づ4日又は5日に東端から現れた一群は、南緯 10° 位にあつて、初めは塊狀群に見受けたが、9日頃から東西に相當長く延びて來た。11日に中央通過、17日に西沒した。肉眼にも映じた様である。然し、其れに少し遅れて9日に東端から出現したものは、南緯 13° 内外にあつて、前にも増して巨大な群に發達し、15日頃中央通過、21日西沒した。勿論肉眼にも良く映じ、最も發達



1938年7月17日

1938年7月20日

(伊達英太郎氏撮影)

したのはやはり中央通過の頃だと見られた。此處に伊達氏の撮影になる寫眞を示すが、少し中央より西に向つた所にあるのが其れであり、其の擴大圖を表紙に示して置いた。表紙のスケールでは、地球は約4.5ミリの大きさになるから、此の黒點群一體の點めて居る面積は優に地球の50倍には達した事になる。其他にも肉眼に映じたものはある様子だが、左程特殊のものは無かつた様である。

其他、津留氏より肉眼的黒點群4との報告及び前記の大黒點群の15、16兩日のスケッチを報告された。

當課よりの御願ひとしては、各自相對數の觀測と共に、何か變つた一つだけ報告を期待する。(南北にわけるとか、寫眞とか、肉眼觀測とか)又、務めて、餘り天氣のよくない日に僅かの機會を逸さず觀測され度い事、及相對數の合計、平均の計算は必ず二度やり直していただき度い事である。

訂正。天界 208 號發表中、6月5日津留氏の相對數51は52の誤りに付き訂正致します。

謝意。報告送付先の變更等に依つて入手遅延の爲めに、折角御報告を受け乍ら、掲載出來なかつた方が少しありました。右の方には謹んで御詫び申し上げます。(沓掛氏、三宅氏6月分入手致しました。)(木邊記)

★變星課

課長小山氏の急逝により已を得ず當分報告は小生宛に願ひます。然し觀測は大いに勵んで下さい。(木邊)

★遊星面課

坂上務氏より、水星2、木星2、土星1のスケッチ報告があつた。

目下開店休業中に近いが、當課は他の課と違つて、目的物が非常に制限を受け易い爲なのであつて、實はさにあらず、意氣込は充分持つて居ます。

(E・D)

★觀測部員に急告

流星、黃道光、遊星面以外の觀測報告は一應全部下記へ御送付御願ひ致します。

京都市上京區東三本木丸太町上ル 信樂旅館内

木邊成麿

紹介

變光星課發行の報告書

去る6月上旬に東亞天文協會變光星報告第1號 RAPORTO de la VARI-
STELA SEKCIO de la ORIENTA ASTRONOMIA ASOCIO No. 1
(REPORT of the VARIABLE STAR SECTION of the ORIENTAL
ASTORONOMICAL ASSOCIATION No. 1) が、本協會の變光星課より
發行された。21cm×11cm の大きさに248 page、紙質は模造紙80斤紙が使用され、
内部の字はタイプライタ1印字、日本字は手筆の謄寫版刷である。假印刷
とはなつて居るが、其れは單に普通の活字印刷に依つて居ない爲めの事なので
あつて、此の様な小數しか發行部數を持たないものに在つては、別に其れ故に
ヒケ目を感じる程のものではない。内容は1935、1936兩年度に於ける東亞天文
協會員の行つた變光星眼視觀測の集録であつて、其れ以前のものでも、花山ブ
レテン222, 256, 275, 283, 285, 290, 324の各號に發表洩れのもの殆んど
全部載録されて居る。(但し約1000個のものが全部を通じて未發表になつては居
るが) 内容は其等の觀測發表が主であるが、記事も多少加はつて居る。且つ外
國向けの爲めには、エスペラント語が使用されて居るのも特徴であつて、英語
は補助的に使用されて居る。とにかく、此の發表に際しては、報告の整理から
印刷迄、殆んど全部が小山理學士の手になつたものであり、其の勞には大いに
敬意を表して然るべきものがあらう。

今其の實物を手に取つて見た内容の紹介を加へて見ると、先づ1pageには發
行に際する序文に相當するものが出て居り、2pageには發表延期の星及觀測内
容の略號が示され、3—7pageには觀測者、觀測地、個人別の使用器械と略符、
觀測數等が示してある。其れに依ると33名の觀測者中南米ブラジルの勝浦氏、
及大連の河合氏以外は全部内地であり、然も大部分が京都以西のものに限られ
たかの如くに見受けられるのは、現在の狀勢では已を得ないが、幾分淋しく思
はれる事實である。器械の方は肉眼から最大32cmのものに及んで居るが、割
合よく分布されて居る。即ち肉眼25、双眼鏡14、2~3cmのフアイング1級14、
5cm内外9、10cm内外の手頃なもの19、15cm級のもの11、30cm内外のもの9と
云つた具合である。(必ずしも的確な分類ではないが)。觀測者は33名、觀測星

数は194, 目測總數は實に21723個の多數に達して居る。平均して個人割 700 個ばかり目測して居る事になるが, 最も多いのは木邊6012, 小山3089で, 次に2000以下に降つて今津, 沓掛, 西井, 加藤, 小澤諸氏が載録されて居る。(但しこれは此の報告書中に掲載されて居るのみの事である)。

8page 以下はいよいよ本目的の観測發表であるが, 次の様に大體星の型に依つて7部門に分けられて居る。即ち次表の様である。

	星 型	頁 數	観測者	観測星	目測數
第一部	ミ ラ 型	8~72	29	106	6208
第二部	牡牛 VR 星型	73~86	22	13	1376
第三部	ケフェウス μ 星型	87~97	17	11	1092
第四部	北冠 R 星型	98~110	22	8	1407
第五部	白鳥 SS 星型	111~185	15	23	6585
第六部	新星及新星類似型	186~224	24	10	2188
第七部	其 の 他 雜	225~244	17	23	2867

第一部, 第二部は, 是等の観測から誘導された所の極大, 極小の表が最初に出て居り, 次いで観測發表は日付, 光度, 観測者の三項目にして示してある。第三部, 第四部も, 大部分が日付, 光度, 観測者の三項で出て居るが, 一部の星には目測の記號も出て居る。第五部は大部分微光の星である爲めに, 二三の星を除いては観測者限定されて居るが, 大部分が目測記號も併記されて居り, (むしろ與へてある光度が不充分であるから) 大體に於て最も力の入れてある部分である。こうした發表を此の型の星に行ふ事は少し冒険でもあらうが, 一面此の型の大部分の星を, 數名の観測者が協同して行つた點は, 世界の他の報告中にも先づ今の所見掛けない所であつて(少くとも未だ發表は出て居ない), 観測價値の有無は今後に待つとしても, 公平に云つて出色した部分であらう。第六部も特殊な星であるから, 丁寧に取扱つて居り, 特に DQ Her の如きは初期(6.0等級以前)には全部高度に依る補正を加へて居るから, 相當整理に時日を費したものと思はれる。第七部は發表型式はマチマチであつて, 1個1個の光度を示さなかつたものもあれば, 第五部同様に取扱つた星もある。

最後に 245~248 page にかけて星名索引, 正誤表等が附加されて居る。

以上通観すれば, 初めての刊行にしては非常に良く出来て居る。ただ強いて云へば, もう少し全體に通ずる表の様なものに缺けた憾みが無きにしても非ずで

ある。然し、本書の目的が、この1冊で意味を求めるものでもなければ、又大體が單に忠實に個々の観測を發表する事に在るのだから、別に深く意を介する必要は無いだらう。とにかく、此の報告の刊行に依つて、東京の日本天文學會の取扱つて居る發表と併せて、日本の變光星観測が殆んど網羅し得られた事に大きな喜びを感じる。終りに、本書の序文にあるが如く、此の出版に際して多大の指導を寄せられた山本博士や、又、重ねて前述の如く、萬事に多大の勞を拂はれた小山理學士、並びに財政的な援助の大きかつた倉敷の原氏及西川、荏部兩氏や、技術的な勞力を拂はれた今津、木邊、香掛、西井の諸氏にも謝意を表すべく、同時に此の出版の今後の永續と、引いては世界文化への貢獻に進まれん事を切に希望して已まない。

附記：本書が小山理學士の手に成る最後の刊行物となつた事は遺憾に堪へない。講讀申込は本部へ 定價1圓20錢（荷造送料共）

番外報告

戦線での太陽黒點観測
荒木九臯

器械 口径 5cm 反射鏡, 30×眼視

1938年6月1日	—	—	—	雨	17	8群	45	相對數123
2	—	—	—	雨曇	18	9	46	136
3	8群	59	相對數139		19	9	33	123
4	—	—	—	曇	20	8	32	112
5	8	56	136		21	8	28	108
6	10	51	151		22	7	19	86
7	—	—	—	雨	23	—	—	— 曇
8	10	44	144		24	—	—	— 忙
9	10	52	152		25	—	—	— 忙
10				曇	26	—	—	— 忙
11				小雨	27	—	—	— 雨
12	9	79	169		28	—	—	— 雨
13	10	90	190		29	—	—	— 雨
14	6	38	98		30	—	—	— 忙
15	9	73	163		31	5	27	77 —
16	11	52	162		観測日數17——日平均相對數133.5			